

ひと

今年4月に日本水道鋼管協会(WSP)小径管部会長および塩ビライニング鋼管リサイクル協会会長に就任した。

目下、建築設備向け管材は、建築基準法改正に伴う建築着工数の減少が続いていたところに、昨年の米国発の世界同時不況が加わり、厳冬の時代に突入している。

この状況に対し、「鋼

管の良さと競合品種の良さ、それぞれをしっかりと分析し、またユーザーの需要、社会的要請も加味し、その時のニーズに応えた製品を市場に出し続けることが肝要」と話す。

具体的には、このほど小径管としては8年ぶりの新規規格となる「WS

鋼管の特長を研ぐ

とから、この拡販にも力を入れる。また、耐震性をさらに向上させるべく、転造ねじ接合の調査

研究も加速させ、鋼管の特長を磨いていきたいとしている。

また、現在、建築設備向け管材の過半数のシェアを占める塩ビライニング鋼管のリサイクルに関

とから、この拡販にも力を入れている。また、耐震性をさらに向上させるべく、転造ねじ接合の調査研究も加速させ、鋼管の特長を磨いていきたいとしている。

また、現在、建築設備向け管材の過半数のシェアを占める塩ビライニング鋼管のリサイクルに関

しては、これを仕様書に含める自治体が少しずつ増えてきているという。

「現在、協会のリサイクルシステムの利用実績は、33都道府県に増加し、20年度の実績は前年度比13・3%増の67・5トになっていきます。しかし、環境問題を考えると、さらに利用者が増える必要

活動に関しては、「製造している製品のメニューは、各社とも異なるため、企業戦略も異なるが、当協会の製品を拡販したいという所は一致しており、私もこれに力を入れたい」と抱負を語る。

これまでで最も印象深い業務は、「旧川崎製鉄と旧日本鋼管が合併して

JFEグループが誕生した時は、両社のお客さまへのフォローや生産拠点の見直し等いろいろと関わりましたので、感慨深いです」と紹介。

趣味は「家庭料理」で、かなり本格的に調理することのこと。最近は、「自分の創った料理がこどもに『おいしい』と言ってもらえる」と、大きな笑顔を見せる。

【プロフィール】昭和58年早稲田大学政治経済学部卒業、同年川崎製鉄(現・JFEスチール)

入社、平成10年同社本社鋼管営業部鋼管グループ長、15年JFEスチール鋼管営業部鋼管室長、19年同社本社営業総括部営業総括室長、今年4月に鋼管営業部長に就任。昭和34年5月4日生まれ、大分県生まれの50歳。



WSP小径管部会長
塩ビライニング協会
リサイクル協会

氏名 佐藤 知道

しては、これを仕様書に含める自治体が少しずつ増えてきているという。

これまでで最も印象深い業務は、「旧川崎製鉄と旧日本鋼管が合併して